



「国立教育政策研究資料」の活用

のための学習評価に関する会 所長 宮里 寧



一、参考資料をめぐる経過

この資料は、「学習評価及び指導要録の改善通知」（平成二二年）に対応し作成されました。一評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための「参考資料」（平成十四年）は、国として初めて評価規準の資料を示したもので、評価規準の作成を各学校等にすべて任せってきたのは、国としての責任を果たしていないという意見を受けたものです。次の平成二三年の同名の資料では、各教科六つ程、実際の児童生徒の作品を用いて評価規準の適用方法を説明した評価事例が掲載されました。今回は、形成的評価重視の流れを受けて、評価の結果を指導に生かすことを強調しています。それを受け、「指導と評価の一体化」という言葉を入れたと考えられます。

小・中学校別に、各教科と特別活動、総合的な学習の時間に分かれて作成されています。教科に関しては第一編総説、第二編「内容のまとめ」との評価規準」を作成する際の手順、第三編単元ごとの学習評価について（事例）

第一編総説

(1) 第一編総説

第一編は、どの教科も同一の内容です。第一章で注目されるのは次の部分です。「主体的に学習に取り組む態度」については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」と、「②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することを求められる。また、第一編でひときわ注目されるのは、第一章「学習評価の基本的流れ」の次の部分です。基本的に、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年(分野)の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめ」(「)」ことに育成を目標とする資質・能力が示されている。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりつるものである。学習指導の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、児童生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、「2 内容」の記載事項の文末を「()」から「()」へしていると変換したものの等を、本参考資料において、「内容のまとめ」(「)」との評価規準」と呼ぶこととする。

2
第2編「内容のまとまりことの評価規準」を作成する際の手順

第一編第二章の内容を具体例で示しています。例…小学校学習指導要領第六学年算数「縮図や拡大図について理解すること」となっているのを「縮図や拡大図について理解している」に変えればよいと言っています。

(3) 第3編単元ごとの学習評価について（事例）第一章では、単元ごとの評価規準の作成について述べました。「この編の評価規準は、各章の関係の足りないところを教科について尋ねて、各章ごとに評価する」とあります。

(3) 第3編単元ごとの学習評価について（事例） 第一章では、単元ごとの評価規準の作成方法が示されています。「内容のまとまりごと」と単元の関係の捉え方は教科によって異なつており、それぞれの教科の考え方により単元の評価基準を導く手順を示しています。一部の教科では、学年ごとに評価基準がどう変化するか示されていて興味深いです。全体的な印象としては、評価事例は数こそ少ないものの、児童生徒の作品や写真が多用されており、説明も工夫されています。小学校においては、新しい通知表の成功のためにも、ぜひ活用してはどうでしょう。

8月の教育研究所研修・講座中止のお知らせ

★コロナウイルス拡散防止対策の為に、以下の研修を中止します。経年研修については、動画配信や資料配布等を通して、研修を行います。

- 13日 (木) 第2回 教職3年目研修
14日 (金) 小学校国語授業実践講座
14日 (金) 小学校算数科授業実践講座
算数科授業改善研修会
17日 (月) 中堅教諭等資質向上研修⑨
18日 (火) 第2回教職2年目研修
19日 (水) 小・中プログラミング講座
20日 (木) 中学校 電子黒板活用講座
24日 (月) 第2回 教職5年経験者研修

第7回 初任者研修(対馬丸記念館見学)を終えて

初任者研修で、対馬丸記念館見学や講話を通して、平和教育についての理解を深めました。研修者の感想を紹介します。

- ・「館内見学では、遺品や遺影を前にしてより深く向き合うことができると感じた。周辺慰靈碑・顕彰碑見学では、それぞれの場所に塔や碑が建てられた経緯を伺うと、足を運んで学ぶ大切さを身に染みて感じました。」

- ・「年間を通して平和教育を続けるために、今も見つかる不発弾や海外の紛争など、何かに絡めて行うために、社会で起きてている出来事にアンテナを高くし、指導に繋げたいです。」授業実践で子供達に伝えたい貴重なメッセージを得る研修になりました。

